

ドイツ語（初級 B） 第 16 回 授業ガイダンス（新規履修者向け）、前期期末試験の解答と解説

範囲：ドイツ語（初級 A）の前期期末試験

- * ドイツ語（初級 B）の授業回数は前期のドイツ語（初級 A）からの通算で表示する。授業第 16 回＝後期第 1 回。
- ** 前期期末試験の解答と解説については、模範解答（別紙）を参照。

I 授業ガイダンス（新規履修者向け）

1. 後期「ドイツ語（初級 B）」からの新規履修者について

◇ 長谷川担当のドイツ語（初級 B）を履修する人のなかには、以下の

- 1) 前期にも長谷川担当のドイツ語（初級 A）を履修しており、後期から時限だけ移った
- 2) 前期には別の先生のドイツ語（初級 A）を履修していたが、後期から長谷川の授業に変えた
- 3) 前期には別の初修外国語を履修していたが、後期から長谷川担当のドイツ語（初級 B）に変えた
- 4) 昨年度、後期分の初修外国語単位を取得できなかったため、今年度の後期は長谷川担当のドイツ語（初級 B）を履修すると決めた

パターンに該当する人がいるかもしれない（これ以外の場合は、個別に申告してください）。

◇ このうち、1)の人については、特に問題は生じない（1 限、2 限、3 限ともに同進度だから）。

◇ それ以外の 2)～4)の新規履修者は、

- ・ 2)の人は、この授業はほかの先生の授業よりも進度がはやい可能性があるため、自分がまだ習っていない部分を自習しておく必要がある（やり方については後述）。
- ・ 3)の人は、この授業の前期の内容をすべて自習しておく必要がある（同上）。
- ・ 4)の人は、昨年度に長谷川担当のドイツ語（初級 A）を履修していたのであれば 1)と同じ扱い、それ以外であれば 2)か 3)と同じ扱いになる。

2. 授業ガイダンス（概略のみ）

◇ 上記の 2)～4)に該当する人のため、知っておくべきことを軽く説明しておく（前期の第 1 回に行ったガイダンスの概略）。

◇ 授業で使用するものは、

- ・ 教科書：中島悠爾／平尾浩三／朝倉巧『練習中心 初級ドイツ語文法〈コンパクト版〉』白水社、2009 年（2300 円）
- ・ 独和辞典（後述）
- ・ 毎回の配付資料：授業開始前、通路側一番前の机のうえのプリントを各自で回収して授業に臨む。

◇ ほか、授業のウェブサイト (<http://hasegawa.la.coocan.jp/lecture/2025/2025tusDeutschAB.html>) が存在する。ここでは、

- ・ 毎回の**進度についての情報**
- ・ その回の**配付資料**（PDF ファイル）

を掲示しているので、授業を休んだ場合などは活用してほしい。ただし、著作権的な問題が生じる配付物に関しては、本授業の LETUS ページに掲載する場合がある。

◇ 上記の 2)～4)に該当する人は、

- ・長谷川担当のドイツ語（初級 A）で学習済みの部分、**教科書第 9 課（38 ページ）まで**を自習する。
- ・その際、教科書の説明不足を補うため、教科書とあわせて、**授業ウェブサイトに掲載してある配付資料第 1 回～第 14 回**も読んでおく。

- 特に、**授業第 1 回配付資料（授業ガイダンス）**は重要で、いま説明している内容がさらに詳しく解説されている。

- 次に、授業第 3 回に配付した「**ドイツ語基本例文 100**」が重要。教科書の練習問題から抜粋した例文 100 で、小テストや期末試験の聞き取り問題はここから出題される。ネイティブスピーカーによる読み上げも CD で聞くことができる（CD 再生装置を持っていない履修生は、個別に申告してください）。

- ・（未所持の場合、）**独和辞典**を購入する。独和辞典の買い方は、やはり授業第 1 回配付資料に掲載。

◇ 授業は主に、以下のプロセスで構成される。

- ・教員による文法事項の解説（教科書を進めていく）。
- ・教員が学生を指名し、教科書の練習問題や配付資料（後述）の課題などに解答してもらう。
- ・ほか、必要に応じて、2 人一組になってもらい会話の練習をする、1 人ずつ指名して長文を 1 行ずつ読んでもらう（いずれも教材は配付資料として用意する）、など。

◇ 成績のつけ方は、シラバスにあるように、

- ・「平常点 30%、小テスト 20%、期末試験 50%」をベースに、積極的な授業参加（文法や語彙の習得、自由提出の練習問題や作文など）も評価する。詳細は口頭および掲示（後述）で伝える。
- ・平常点については、きちんと授業に参加したかどうかを判断基準とする。ただし、やむを得ない事情で授業を欠席した場合、一定の配慮もするので、メール（後述）で連絡してもらいたい。
- ・2022 年度より成績評価に相対評価が持ち込まれ、S や A の割合制限（50%程度）が課せられている。

例えば、シラバス基準で全員が 80 点以上を取得したとしても、必ず S や A がつくとは限らない。

◇ 学生・教員間の連絡は、

- ・教員 → 学生：

授業中に口頭で行うほか、小テストや期末試験の情報のような重要事項に関しては、CLASS でも掲示を行う。学生は必ず CLASS にメールアドレスを登録し、掲示があり次第メールを受信できるようにすること（過去、これをしなかったため、期末試験の日時を勘違いして受験できなかった受講生がいた）。

- ・学生 → 教員：直接の質問のほか、メール（下記）でも受け付ける。

◇ 教員の自己紹介

- ・氏名：長谷川晴生（はせがわはるお）
- ・専門：ドイツ文学、ドイツ思想
- ・ウェブサイト：<http://hhasegawa.la.coocan.jp/>
- ・メール：tokan@nifty.com

連絡先など

教員のメールアドレス：tokan@nifty.com 授業のウェブサイト（進捗表示、配付資料あり）：<http://hhasegawa.la.coocan.jp/lecture/>